

- 御伝鈔の拝読時間を変更□1
- 阿弥陀さまと私□2
- 新・祖蹟点描□3
- 青色青光□4
- 和歌山教区子ども報恩講□6
- 伝灯奉告法要協賛行事□8
- 響流十方□10
- つれもて聴こら□12



『紀伊国名所図会』に描かれた江戸時代後期の鷺森御坊

2018年(平成30年)  
1月1日  
第115号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 電話(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

鷺森別院報恩講

# 『御伝鈔』にスポットライト

## 拝読時間を繰り上げ



鷺森別院所蔵の御絵伝に描かれた親鸞聖人ご往生の場面(部分)。

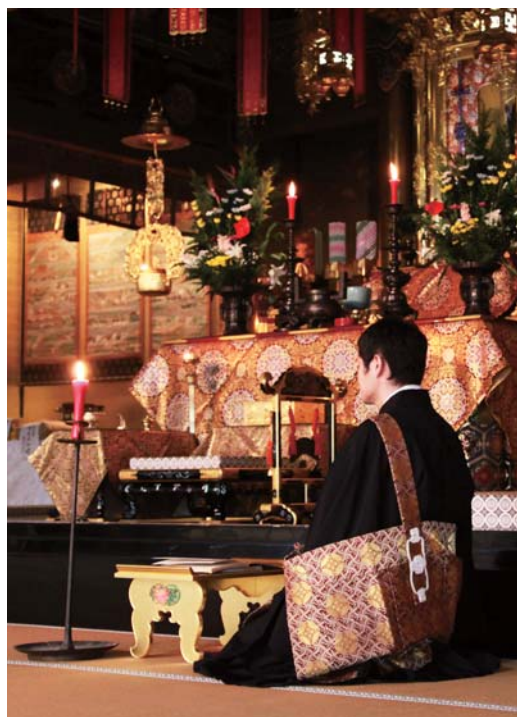
弘長2年(1262)11月下旬からいささか体調を崩された親鸞聖人は、それ以来、世俗のことは口にされず、ただ仏恩の深いことを述べられ、もっぱらお念仏を称えて絶えることがなかった。

そして、その月の28日正午ごろ、「頭北面西右脇に臥したまひて、つひに念仏の息たえをはりぬ」と、『御伝鈔』下巻第六段に述べられている。

### 「念仏の息絶えをはりぬ」

昨年11月24日から28日まで厳かに勤められた鷺森別院報恩講。その初日、午後

1時30分からのお勤め(遠夜法要)に引き続き、「それ聖人の俗姓は藤原氏…」



初日から4日間、遠夜法要に合わせ御伝鈔拝読(写真は11月26日)

と、『御伝鈔』を読み上げる声が堂内に響き渡った。参拝者は親鸞聖人のご遺徳をしのび、静かに耳を傾けた。

一昨年までは27日の午後7時ごろから通夜布教に先立って行われていた『御伝鈔』拝読だが、より多くの参拝の方々に聴いてほしいと、拝読時間を変更。上下巻それぞれを半分

に分け、教区内の特別法務員が分担し、初日から4日間かけて読み上げた。『御伝鈔』は、親鸞聖人

のひ孫にあたる本願寺第3代覚如上人が、親鸞聖人33回忌の翌年(1295年)に親鸞聖人の90年のご生涯を絵巻にされた『本願寺聖人親鸞伝絵』の詞書の部分の部分が掛軸にしたのが「御伝鈔」で、報恩講の間、右余間に奉懸された鷺森別院所蔵の御絵伝は、軸裏に天正2年(1574)12月14日付の第11代頭如上人の自署と花押がある。

『御伝鈔』が報恩講で初めて拝読されたのは、第8代蓮如上人の時代。明応5年(1496)11月25日、

京都の山科本願寺で御正忌報恩講が勤められていたときのこと、当時82歳だった蓮如上人は翌年の定かならぬことを思い、その勝縁に感激、親鸞聖人の御影前に端座して涙ながらにこれを拝読された。

にぎにぎしく勤められた報恩講



拝聴した満堂の参詣門徒衆は、ともどもに報恩謝徳の一夜を過ごしたという。



# 阿彌陀さま

## ハウツー仏事と私

### ⑰ 御正忌報恩講

10月ごろから全国の浄土真宗の寺院でお勤めされていた「報恩講」がひと段落し、鷺森別院の報恩講も終ると、年明け早々の1月9日から、ご本山西本願寺で「御正忌報恩講」が勤まります。

宗祖親鸞聖人の祥月命日(御正当)にあたる1月16日(旧暦11月28日)を新暦に直した日)までの8日間、7昼夜にわたってお勤めされることから「お七夜」とも呼ばれる法要。底冷えする寒中の京都に全国のご門徒が参集し、親鸞聖人の遺徳をしのびます。

今回は、一人でも多く御正忌報恩講にお参りしてい

## 全国からご門徒が参集 親鸞聖人の遺徳しのぶ

ただきたいとの願いを込めて、法要・行事紹介—。1月9日午後1時55分から御影堂内陣の親鸞聖人の御真影(お木像)が安置さ

れているお厨子の扉を、ご門主自らが開かれる「御親開扉」に続き、2時から初速夜法要が始まります。

法要は、**晨朝** (午前6時)、**ご法要** (午後6時)、**日中** (10時)、**速夜** (午後2時)、**初夜** (午後3時30分)の1日4回。ただし、15日の初夜法要は午後6時から、16日は日中法要まで。

**改悔批判** (9日から15日 13日以外)

## 1月9日～16日は西本願寺へ



全国からの参拜者で埋まった御影堂 (昨年の御正忌報恩講)



御正忌報恩講中、御影堂内陣中央の須弥壇には、鮮やかなお供物が並ぶ。⑤から色彩餅、棧木(落雁)、山吹(団子)、州浜(大豆を炒った粉で作ったもの)、蜜柑、紅梅糖(落雁)、松風、紅餅、銀杏、饅頭の10具

午後3時30分の初夜法要では、「改悔批判」が行われます。本来は、ご門主が参拜者の信心の正否を批判(判断)する儀式ですが、現在はご門主に代理を命じられた勸学(学階の最高位の僧)が、浄土真宗のご法義を述べ、参拝者の「領解出言」を受け、法話を行うという形を取っています。

### 御伝記拝読

13日午後3時30分の初夜法要では、御伝記(御

伝鈔)が拝読されます。

### 斎勤行・非時勤行

10日から15日の初夜法要では、御影堂で改悔批判または御伝記拝読の前後に、正信偈と和讃三首引のお勤めがあります。前のお勤めを斎勤行、あとお勤めを非時勤行といひ、これらの調声を務める人を「御頭人」と呼びます。御頭人とは、蓮如上人の時代から本願寺を支えた各地の講の講主(頭人)のこ

と。山科本願寺の報恩講では、頭人が当番制で斎(午前の食事)と非時(午後の食事)の接待を務め、そのおかげで報恩講での調声を許されたのが「御頭人」の始まりだと言われます。なお、15日の初夜法要は午後6時から。

### ご親教

「大速夜」と言われる15日午後2時の法要に続き、ご門主のご親教(法話)。

### 通夜布教

15日午後7時から翌16日午前5時40分までは、間法会館で布教使さんが交替で夜通し法話をする通夜布教。

### お斎接待

10日から15日の間で、お斎(精進料理)の接待もあります(1万円以上の懇志進納が必要)。一年に一度の尊い縁です。どうぞお参りください。

※写真は本願寺新報社提供。写真では参拝が椅子席ですが、今年の御正忌報恩講は椅子席ではありません。(松本教習・「僧侶の社会をめぐり運動」和歌山教区委員長)



新

# 祖蹟点描

## 17 比叡山 青龍寺㊤

ことは前回述べた。

聖とは「日知り」に由来する語とも言われるが、国家の認める僧位僧官を離れ、在野の一個人として大乘菩薩道を実践する僧を指した。現代で言えば「宗教者」という言葉に近いだろうか。

逆に言えば、当時の比叡山の僧の本質は、宗教者とは程遠いものだった。比叡山という組織に属するかぎり、真つ先に優先すべきは官僧としての自らの職務であり、また高位要職を得ようという世俗的価値観にも惑わされ、宗教者という本分は忘れられがちであった。

### 別所の聖として求道の日々



法然聖人が隠遁生活を送られた青龍寺の本堂

## 法然聖人、『往生要集』に会う

そのことに空しさを感じ、真剣に仏道を歩まんとするがゆえに組織からはみ出した僧たちは、比叡山の外れのような場所に草庵を結び、自他共に救われていく道を求めた。このような聖たちの集う場所を「別所」といった。比叡山では青龍寺

のほかに、東塔東谷の神蔵寺、横川兜率谷の靈山院、同飯室谷の安楽律院、同じく飯室谷の帝釈寺が「五別所」として知られている。

青龍寺に隠遁されてから、法然聖人は一切経(經典の全集)を繰り返し読まれた。

その傍ら、24歳のときに

嵯峨(京都市右京区)の清涼寺に「求法の一事」を願うため7日間の参籠を行い、それから法相宗、三論宗、華嚴宗と、それぞれ当時の学匠を訪ねては法談に及ばれたという。

しかし、決定的だったのは、青龍寺で『往生要集』

に出遇われたことだった。源信和尚(恵心僧都) 942~1017)が985年(寛和1)に著した『往生要集』は、比叡山に伝わる浄土仏教を体系的にまとめた書物として名高い。章の題名にもなっている「厭離穢土」「欣求浄土」の語が表すように、末法を意識せざるを得ない重苦しい時代にあつて、穢れたこの世を厭い離れ、極楽浄土を欣び求める人々のために著された聖教だった。

『往生要集』には極楽往生に関する重要な文が多数の經典論書から引かれているが、人々の心をとらえたのは、その具体的かつ実践的ともいえる記述だった。地獄や浄土のありさまを詳細に描き出した上で、念仏こそが極楽浄土に往生する道であることを明らかにし、さらに臨終における作法と念仏の指南にまで及ぶという構成は、浄土往生を確実にしたいという人々の切なる願いに込めるものだった。ただし、ここでいう念仏とは、本連載第9回でも触れたように、南無阿彌陀仏と名号を称える口称念仏よりも、阿彌陀仏のお姿をありありと心に思い浮かべる観想念仏(仏を念ずること)を主とするものだった。

法然聖人は、『往生要集』との出遇いのおかげから新たな道を切り開いていけることになる。

【参考文献】田村圓澄『法然』(吉川弘文館)、黒田俊雄『寺社勢力』(岩波新書)、井上光貞『日本浄土教成立史の研究』(山川出版社)(本紙編集部)

### 比叡山 青龍寺

場所 滋賀県大津市坂本本町4220  
電話077(578)0001(代)  
交通 京都駅でJR湖西線に乗り換え13分、「比叡山坂本」駅下車、同駅前から江若バス・ケーブル坂本線で7分、「ケーブル坂本」駅下車、坂本ケーブルに乗り換え11分、「ケーブル延暦寺」駅下車、徒歩1時間。



和歌山教区

# 社会福祉活動の充実目指す

## 歳末助け合い街頭募金とチャリティーバザー実施

和歌山教区では、浄土真宗本願寺派社会福祉推進協議会和歌山教区支部(社推協)が中心となり、社会福祉に貢献しようと毎年恒例となっている歳末助け合い街頭募金とチャリティーバザーを行った。

### ■チャリティーバザー

昨年11月27日、鷺森別院報恩講4日目の正午から、社推協が主催してチャリ

ティーバザーを開催。本堂の一角には教区内の僧侶・門徒や鷺森幼稚園の保護者らが出品した衣類や食器などの生活用品が数多く並べられ、この日報恩講に参拝した仏教婦人会の会員が熱心に品定め。バザー会場は活気を帯びた。

この日の売上げは、6万7455円。社推協の事業である「長寿のお祝い」



バザーでにぎわう鷺森別院本堂



駅前で募金を呼びかけ

や「被災地支援」「災害ボランティア活動」などの社推協の活動資金として使われる。

### ■歳末助け合い街頭募金

昨年12月1日の歳末助け合い街頭募金では、社推協の呼び掛けに応じた教区内の僧侶・門徒36人が、JR和歌山駅中央口と和歌山市駅前広場に分かれ、通行人に募金を呼び掛けた。

この日集まった6万2444円は、社会福祉法人・読売光と愛の事業団に寄託され、被災地支援事業や障

害者の福祉、子どもの福祉などさまざまな社会福祉事業に活用される。

### 御礼

先般、社推協当支部主催にて開催したチャリティーバザーに、ご寺院住職様はじめ各教化団体役員・会員様より多くの物品を提供頂きましたこと、心より御礼申し上げます。

また、当支部の活動にご賛同いただき、当日ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

本派社推協和歌山教区支部

## 報恩講をきれいな本堂で

教区仏教婦人会連盟が清掃奉仕

教区仏教婦人会連盟では昨年11月15日、教区内各地から会員ら50人が集まり、同月24日から勤められる鷺森別院報恩講を迎えるに当たり、清掃奉仕を実施した。午前10時30分に集合し、1階書院で讃仏偈をお勤めその後、2階本堂をはじめとして、書院、輪番所、ホール、トイレなど、館内を組ごとに担当場所を決めて、約1時間の清掃奉仕に励んだ。



清掃前に書院でお勤め

## 住職と共に新たな一歩を

責任役員辞令・門徒総代登録証伝達式

昨年11月25日、鷺森別院報恩講中の門徒総代参拝奨励日に合わせて「責任役員辞令・門徒総代登録証伝達式」が行われた。

今回の伝達は、4月から9月30日の間に願記申請をされ、新たに就任した責任



教務所長が辞令を伝達

役員、門徒総代、27カ寺99人が対象。当日出席した11カ寺の寺院代表者に中岡順忍和歌山教区教務所長が辞令と記念品を伝達。続いて中岡教務所長はあいさつで「各寺院における現状・課題はさまざまですが、住職と手を携えて、今よりもさらに聞法の輪が広がるような寺院活動を展開していただき、宗門が益々発展していくよう、共にまい進していきましょう」とエールを送った。和歌山教区教務所では年2回、5月と11月に伝達式を行っている。

## 青色青光



# 青色青光

## 「せり弁説法」を聴聞

### 日高組 第23回真宗法座開く

日高組では昨年12月10日、第23回真宗法座を即生寺(日高郡日高町志賀)で開催。門徒、僧侶、寺族ら50人が集った。

法座では「撰取不捨の真言」という講題で、本願寺派布教使の鈴木善隆師(守山市欲賀町・明楽寺)が話した。阿弥陀如来のご本願



老若男女が法座に集う(即生寺本堂)

のいわれを「せり弁説法」(能登地方の伝統的な節回しを入れた法話)を交えながらのお取り次ぎに参加者は聴き入った。

この法座は、日高組が重点プロジェクトの

掲げる「老若男女が集まるお寺にしよう!」の実現に向け、組内の僧侶・門徒が友人・知人等を誘い合い、法座への参加を促している。

なお、このたびの法座は第10期門徒推進員養成連続研修会の開講式も兼ねての開催となった。

### 鷺森テレホン法話 073-422-0243

こころの電話(海南組西光寺)  
TEL(073) 487-2430  
ヤングこころの電話(同上)  
TEL(073) 487-0404  
こころの電話(御坊組専福寺)  
TEL(0738) 44-0874

### 仏具ピカピカに 鷺森別院でおみがき



一つ一つの仏具を丁寧に磨く

鷺森別院では、昨年11月10日に鷺森別院本堂でおみがきを実施した。

同月24日からの報恩講法要をお迎えするにあたり、鷺森別院婦人会会員、若さ

## 今年から「ぬりえの部」も

教区少年連盟第20回子ども作品展

教区少年連盟は、昨年11月24日の鷺森別院報恩講から12月9日の子どものつどい「子ども報恩講」までの16日間、「子ども作品展」を鷺森別院本堂で開催した。

20回目を迎えた今回は、1人でも多くの子どもたちに応募してほしいと、書道、

絵画に加え、新たに塗り絵も募集。教区内の児童から書道90点、絵画4点、ぬりえ16点の合計110点の応募があった。

本堂には、児童らが熱心に取り組んだ素晴らしい作品がすべて展示され、報恩講に彩りを添えた。

ぎ会の会員ら15人が、午前10時に集まり、約1時間、輪灯をはじめ、菊灯、仏飯器などの仏具を丁寧に磨きあげた。

### 認知症サポーター養成講座

和歌山組仏婦が別院で研修会  
昨年11月9日、鷺森別院ホールで「認知症サポーター養成講座」を開いた。

同講座は、和歌山市地域包括支援課の介護予防班が実施母体となり、各地で出前授業を行っているもの。講師として、和歌山市で介護事業を行っている島田



認知症について熱心に学ぶ受講者

の重要性、悪化を遅らせる方法や予防方法、認知症の人との接し方などを学んだ。

厳正な審査により選ばれた入賞者は左記の方々。表彰式は、12月9日の「子ども報恩講」に合わせて行われ、たくさんの方たちが見守るなか、中岡順忍教区教務所長から表彰状と記念品が授与された。

#### 書道の部

- ▽本願寺鷺森別院賞 石田慈▽輪番賞 森田光法、吉田鈴▽少年連盟特別賞

#### 絵画の部

- ▽本願寺鷺森別院賞 板原明香▽輪番賞 板原顕真

#### ぬりえの部

- ▽本願寺鷺森別院賞 田並祐花▽輪番賞 西川優里▽少年連盟特別賞 得津奈々、谷口由起。※敬称略



# 鷺森別院で子ども報恩講

## 168人が参加 ゲームや落語も楽しむ

落語の所作を体験



顔写真などを入れ缶バッジを作製



ストラックアウト



### こぼれる笑顔と笑い声



元気に「らいはいのうた」をおつとめ

まや周りの方々への感謝の心を持ち、その気持ちを『ありがとう』と口に出すことが大切です」と話した。続くじゃんけんゲームでは、いぬ、うさぎ、さるの3チームに分かれ、別のチームの子とじゃんけん。負けた子は、勝った子のチームに変わり、最後にどのチームの子が多いかを競った。午後からは、子どもたちが興味津々で見詰めるなか、「紀の会」のお二人が落語二席と南京玉すだれを披露。さらに綿菓子作り、「紀の会」の指導による落語体験など、9つのコーナーを自由に回った子どもたち。報恩講を縁に、お寺での楽しい思い出をつくった。

この子ども報恩講のため、教区の各教化団体の会員や当日参加したお子さんの保護者など80人がスタッフとして活躍。年に一度の恒例の集いを盛り上げた。

真剣な表情でイライラ棒に挑戦



おいしそうに綿菓子が完成

射的でお菓子をゲット



いくつ入るかな？ピンポン玉入れ



## 綿菓子作り、射的… 9つの体験コーナー



紙飛行機づくり



釣りゲーム

## 本堂で仏さまにお参り

昨年12月9日、和歌山教区が主催する第29回「子ども報恩講」と和歌山教区子ども集い、鷺森別院で開かれ、教区内寺院門信徒のお子さんなど168人が参加した。

報恩講は、子どもたちによる献灯献花で始まり、全員で「らいはいのうた」を元氣にお勤め。中岡順忍鷺森別院輪番が、「常に仏さま



子どもたちによる献灯献花



中岡順忍輪番のおはなし



3チームに分かれてじゃんけんゲーム



「紀の会」の方々による落語に興味津々



# 西本願寺境内でごえんさんエキスポ

12/9~10

## 第25代専如門主の伝灯奉告法要記念協賛行事 昨年12月9、10日、若者対象イベントでフィナーレ飾る

第25代専如門主伝灯奉告法要記念協賛行事の最後を飾るイベントが昨年12月9、10日、本山西本願寺で行われた。これは次世代を担う若者向けイベントで、境内では両日、全国で新しい取り組みに挑戦している本派寺院や僧侶など53団体を紹介する「ごえんさんエキスポ」を開催。阿弥陀堂では9日に、仏教に初めて触れる若者向けイベント「スクール・ナラシメ特別編」、10日には、これからの宗門を担う若者の輪を広げようと、僧侶、寺族、門信徒向けに「本願寺ギャザリング(集会)」を開いた。本願寺ギャザリングでは天岸浄圓師(本願寺派布教使)がゲスト2人とそれぞれ対談。2日間で8419人が西本願寺を訪れた。



阿弥陀堂前に設けられたイベントスペース



今まで仏事やお寺、仏教に興味のなかった人や知らなかった人に、さまざまな活動をを行う僧侶を通して仏教に親んでもらおうと開催した「ごえんさんエキスポ」。会場となった西本願寺白州境内にはテントが立



テント内の各ブースでは、体験ワークショップなど工夫を凝らして参加者をおもてなし



ち並んだ。死について僧侶と語り合う「デスカフェ」、お寺で音楽イベントを行う僧侶たちがDJをしてヘッドフォンで音楽を楽しむ「サイレントフェス」、路上で愚痴を聞き集め、その愚痴を社会に共有していく活動「グチコレ」、僧侶を身近に感じてもらうと無料の雑誌を作る「フリースタイルな僧侶たち」などのブースや、切り絵の体験ワークショップ、老舗京料理のブースなどが並んだ。

自由な発想で幅広い活動を展開する広島青年僧侶「春秋会」は、オリジナルの「塗るお香」体験ワークショップを開き、参加者は専門家に教わりながら塗香を作った。

参加者や参拝者はテントを回りながら、僧侶との会話や、ものづくりを通して仏教に触れ、お寺・僧侶を身近に感じる体験をした。これからの宗門を担う僧侶と、宗門内外の多くの若者のご縁をつなぐきっかけとなるイベントとなった。



鼎談を行った⑤から車、高木、藤丸の3氏



ご縁のない若者が、僧侶、多様な分野の専門家と共に、今と未来を生きる智慧を学ぶスクール・ナラダ特別編には600人が参加した。テーマは、伝灯奉告法要でご門主がご親教「念仏者の生き方」に示さ



高木正勝さんのコンサート

天岸浄圓師と対談した林要さん①と中田英寿さん

12/9

# スクール・ナラダ特別編

## 「脱自己中心的な考え方」学ぶ

ご門主は、2日目の開会に際して15分にわたりお言葉述べられた。

テーマ「宗門と世界の未来を考える」にそって、SDGs(持続可能な開発目標)や過疎・過密地域における寺院環境などについて語られた。この中、これらの時代に合ったお寺の在

り方とみ教えの伝え方について、次のように呼びかけられた。

また、人間関係が希薄になっている都市部では、孤独を感じている方々に対して、浄土真宗のみ教えを依りどころとして生きる僧侶、寺院、門信徒とのご縁を積極的に広げていくことも大事ではないでしょうか。こ

浄土真宗のみ教えを依りどころとする生き方は、今の時代を生きていくとても

### 専ら門主あいさつ「み教えを生きる依りどころ」

れまでの「お寺とご門徒」という関係に縛られず、ご門徒ではない方やご門徒の家庭で育っているがまだお寺とご縁がない方、み教えに親しみを感じているがこれまでお寺にご縁のなかった方に対する働きかけも、意識していかなければなりません。

林要さん(GROOVE X代表取締役)の話 人間と先端テクノロジーの間に信頼関係を結べたらと考えている。浄土真宗の教えも、お寺・僧侶とご門徒さんの間に大きな信頼関係があるから、今日まで受け継がれてきたのでは。

12/10

# 本願寺ギヤザリング

## 宗門と世界の未来を考える

愈(ゆ)徹(とつ)さんのレクチャーを聴いた。ご門主がお言葉を述べられた後、高木正勝さん

と車(くるま)愈(ゆ)徹(とつ)さんと藤丸(ふじまる)智雄(とむね)さん(本願寺派総合研究所副所長)が鼎談(ていだん)を行った。

日本の古い建築物も見てきたが、例えばこの大きな本堂のディテールにまず目を惹かれた。いろいろな部分に細かい装飾が施されていて、それぞれに意味が込められていると思うが、それらが古くからというだけではなく、今の時代においてもデザインとしてとても魅力的だと思う。

中田英寿さん(一般財団法人TAKE ACTION FOUNDATION代表理事)の話 サッカー選手引退後は、世界や日本を旅する中で、日本文化の価値を再発見し、その魅力を発信する活動を始めた。

「伝統」は守るだけでは消えてしまう。守ると同時に進化させることがとても大切だと私は考えている。その「伝統の進化」を、ごえんさんエキスポに感じた。



# 響流十方

## 1月〜3月の催し

### 本山

1月1日 修正会・元旦会  
 1月9〜16日 御正忌報恩講法要  
 1月14日 65回本山成人式  
 3月18〜24日 春季彼岸会

### 和歌山教区

1月11日 和歌山教区寺族女性会委員会(鷺森別院)  
 1月17日 臨時教区会(鷺森別院)  
 1月19日 ビハークラ和歌山主催聴き方連続セミナー②(鷺森別院)  
 1月21日 門徒総代会剪定奉仕(鷺森別院)  
 1月24日 寺院振興対策委員会(鷺森別院)、組長会

### (鷺森別院)

1月25日 実践運動常任委員会(鷺森別院)  
 1月28日 僧侶・寺族研修会(鷺森別院)  
 1月29日 仏教婦人会委員会(鷺森別院)  
 1月30〜31日 近畿各教区会議長・組長代表者・教務所長 合同会議(鷺森別院)  
 1月31日 ビハークラ和歌山主催聴き方連続セミナー③(鷺森別院)  
 2月3日 連研修了者研修会(鷺森別院)、勤式講習会(鷺森別院)  
 2月8日 近同推会員研修会(京都)  
 2月10日 仏教婦人会連盟若婦人研修会「若い女性の集い」(鷺森別院)  
 2月13日 ビハークラ和歌山主催聴き方連続セミナー④(鷺森別院)  
 2月17日 門徒総代会組活動推進事業(和歌山東組)  
 2月17〜18日 得度習礼講

### 教区内各組

#### 和歌山組

1月18日 仏教婦人会タナ活動(鷺森別院)  
 1月27日 第7期門徒推進員養成連続研修会⑤(鷺森別院)  
 1月未定 寺族婦人会新年会(未定)  
 2月1日 門徒総代会・仏教壮年会連盟合同役員会(養専寺)

#### 和歌山西組

1月未定 組内会(善正寺)  
 1月14日 第17期門徒推進員養成連続研修会⑤(法専寺)  
 1月24日 組寺族婦人会例会(螢)  
 2月4日 組内会(願成寺)  
 2月未定 組仏教婦人会役員会(正圓寺)  
 3月4日 第17期門徒推進員養成連続研修会⑥(願成寺)  
 3月未定 組実践運動推進協議会(万福寺)  
 未定 組門徒総代会研修会(万福寺)  
 未定 組仏教壮年会研修会

#### 海南組

1月20日 第3期門徒推進員養成連続研修会⑧(光徳寺)  
 3月17日 第3期門徒推進員養成連続研修会⑨(西法寺)  
 3月未定 仏教壮年会役員会(了賢寺)

#### 加茂組

2月17日 加茂組キッズサロンガ(西方寺)  
 2月未定 坊守会(西方寺)

#### 日高組

2月1日 ひかり編集委員会(信行寺)  
 2月3日 第10期門徒推進員養成連続研修会①(未定)  
 2月4日 門徒総代会後期研修会(未定)  
 2月17日 第3回組内会、実践運動僧侶研修会(即生寺)  
 3月3日 実践運動推進委員会(即生寺)  
 3月31日 定期組会(未定)  
 2月24日 門信徒研修会(日高別院)

#### 伊那組

2月21日 僧侶研修会(光円寺)

#### 有田南組

2月未定 仏教婦人会初会

#### 有田北組

3月25日 仏教婦人会総会研修会(教蓮寺)  
 3月未定 有田北組協議員会(吉原・教念寺)

#### 海草組

2月10日 「人権啓発僧侶研修会」僧侶・寺族女性合同研修会(報徳寺)  
 3月5〜6日 組念仏奉仕

#### 御坊組

2月24日 門信徒研修会(日高別院)

#### 淨福寺

2月14日 仏教婦人会タナ活動(鷺森別院)  
 2月未定 寺族婦人会例会(西教寺)  
 3月7日 門徒総代会・仏教壮年会連盟合同現地研修会(海南組淨福寺・海南組了賢寺)  
 3月10日 第7期門徒推進員養成連続研修会⑥(鷺森別院)  
 3月未定 仏教婦人会タナ活動(鷺森別院)  
 3月未定 寺族婦人会例会(円光寺)

#### 和歌山東組

1月未定 組内会(善正寺)  
 1月14日 第17期門徒推進員養成連続研修会⑤(法専寺)  
 1月24日 組寺族婦人会例会(螢)  
 2月4日 組内会(願成寺)  
 2月未定 組仏教婦人会役員会(正圓寺)  
 3月4日 第17期門徒推進員養成連続研修会⑥(願成寺)  
 3月未定 組実践運動推進協議会(万福寺)  
 未定 組門徒総代会研修会(万福寺)  
 未定 組仏教壮年会研修会

#### 慶圓寺

1月27日 第12期門徒推進員養成連続研修会⑩(善教寺)  
 2月10日 第12期連研第11回スタッフ会議(慶圓寺)  
 2月17日 実践運動「リアルな防災対策」(教願寺)、僧侶と総代の懇親会(未定)  
 3月10日 第12期門徒推進員養成連続研修会⑪(未定)

#### 伊那組

2月21日 僧侶研修会(光円寺)

#### 有田南組

2月未定 仏教婦人会初会

#### 有田北組

3月25日 仏教婦人会総会研修会(教蓮寺)  
 3月未定 有田北組協議員会(吉原・教念寺)

#### 淨福寺

2月14日 仏教婦人会タナ活動(鷺森別院)  
 2月未定 寺族婦人会例会(西教寺)  
 3月7日 門徒総代会・仏教壮年会連盟合同現地研修会(海南組淨福寺・海南組了賢寺)  
 3月10日 第7期門徒推進員養成連続研修会⑥(鷺森別院)  
 3月未定 仏教婦人会タナ活動(鷺森別院)  
 3月未定 寺族婦人会例会(円光寺)

#### 和歌山東組

1月未定 組内会(善正寺)  
 1月14日 第17期門徒推進員養成連続研修会⑤(法専寺)  
 1月24日 組寺族婦人会例会(螢)  
 2月4日 組内会(願成寺)  
 2月未定 組仏教婦人会役員会(正圓寺)  
 3月4日 第17期門徒推進員養成連続研修会⑥(願成寺)  
 3月未定 組実践運動推進協議会(万福寺)  
 未定 組門徒総代会研修会(万福寺)  
 未定 組仏教壮年会研修会

#### 慶圓寺

1月27日 第12期門徒推進員養成連続研修会⑩(善教寺)  
 2月10日 第12期連研第11回スタッフ会議(慶圓寺)  
 2月17日 実践運動「リアルな防災対策」(教願寺)、僧侶と総代の懇親会(未定)  
 3月10日 第12期門徒推進員養成連続研修会⑪(未定)

#### 伊那組

2月21日 僧侶研修会(光円寺)

#### 有田南組

2月未定 仏教婦人会初会

#### 有田北組

3月25日 仏教婦人会総会研修会(教蓮寺)  
 3月未定 有田北組協議員会(吉原・教念寺)



### 和歌山教区仏教婦人会連盟 ～若い女性の集い～

これまで仏婦活動に参加したことがある方、また1度も参加したことのない方、同世代の方々と一緒に、お寺や仏教についておしゃべりしませんか？はじめて方でも、1日たのしく過ごせる企画となっております



- ◆日時 2月10日(土) 11:00～15:30 (10:30より受付)
- ◆会場 本願寺鷺森別院
- ◆講師 中岡順忍(和歌山教区教務所長)
- ◆講題 「お寺に関する素朴な疑問? etc…」
- ◆対象 45歳までの女性 (おおむね50歳まで)
- ◆参加費 無料(ランチ・デザート・コーヒー 紅茶付き)
- ◆申込方法 1月24日(水)までに所属寺院の仏婦単位会へ
- ◆問い合わせ 和歌山教区仏教婦人会連盟(担当:花田) 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 ☎(073)422-4677

### 1月28日(日)に 僧侶・寺族研修会



森田真円さん

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)和歌山教区委員会 は、2018(平成30)年1月28日(日)に鷺森別院で、僧侶・寺族研修会を開催する。 昨年の伝灯奉告法要初日に専如ご門主が述べられたご親教「念仏者の生き方」について私たち一人ひとりが学びを深めることを目的とし、講師には森田真円さん(本願寺派勸学)、藤尾まさよさん(非営利団体崇仁発信実行委員会代表)をお招きし、2人の識者がそれぞれの立場から「念仏者の生き方」を語る。



藤尾まさよさん

この研修会は教区内の僧侶・寺族が一堂に会して、情報や課題を共有し研さんを深め、各寺院における伝道活動につながるようにと毎年開催されている。

#### 得度

10月 北野善教(和歌山組称名寺)

#### 教師

11月 宮脇 茜(和歌山東組浄徳寺)  
廣田聡美(和歌山西組安楽寺)  
板原香樹(有田北組安養寺)

#### 敬吊

12月 北島雅子(和歌山組法福寺前坊守・衆徒) 12月12日

#### 鷺森別院の催し

##### 元旦会

1月1日、元旦会をお勤めする。午前7時から本堂で正信念仏偈行譜をお勤め引き続き1階書院で、中岡順忍輪番が年頭のあいさつ。 1月20日、午後5時から本堂でファンファーレ・ムシカのコンサートが開催される。入場は無料。

##### 春季彼岸会

#### 日高別院の催し

##### 元旦会

1月1日午前0時30分ごろ(除夜の鐘終了後)から新年最初のお勤めである元旦会を本堂で行う。

正信念仏偈をお勤めした後、中岡順忍輪番が年頭のあいさつ。

■春季彼岸会・御坊市日高郡戦傷病没者追悼法要

3月22日、午後1時30分から恒例の春季彼岸会が勤修される。本堂で仏説阿弥陀経をお勤めし、その後、

池本史朗師(姫路市飾磨区亀山・法性寺)の法話を聴聞する。

なおこの法要は、御坊市日高郡戦傷病没者追悼法要との併修となる。

##### 常例法座

1月20日、午後1時30分から正信念仏偈(草譜)をお勤め、引き続き午後3時ごろまで、八木益夫師(愛知郡愛荘町・寶琳寺)の法話を聴聞する。

(本願寺日高別院 御坊市 御坊100 ☎0738-2210518)

3月21日、春季彼岸会をお勤めする。法要は、午前10時から正午までと、午後1時30分から午後3時30分までの1日2座お勤めされる。いずれも仏説阿弥陀経をお勤めし、引き続き池本史朗師(姫路市飾磨区亀山・法性寺)の法話を聴聞する。

3月15日、御養善寺)。3月15日、御得雄師(守山市山賀町・慶先寺)、16日、楠井泉師(和歌山市本渡・西専寺)。

■第13回孫市まつり 3月25日(日)、鷺森別院と周辺を会場に、孫市の会が主催する恒例の「孫市まつり」が開催される。

1月15、16日、八木益夫師(愛知郡愛荘町・寶琳寺)。2月15、16日、安徳剛典師(大阪市西淀川区・

422-4677)



# つれもて 聴こら

親鸞聖人は著書『顕浄土  
真実教行証文類』の総序に、  
「誠なるかな、撰取不捨の  
真言、超世希有の正法、聞  
思して遅慮することなか  
れ」(『註釈版聖典』13  
2頁)と、阿弥陀さまの願  
い、支えに出遇えたことを

## 季平博昭

喜び、しっかりと心に受け  
とめて人生を歩むことが何  
よりも大切であるとお示し  
くださいました。

『少年連盟だより』14  
2号に、次のような文章が  
掲載されていました。

「子どもは、静かな落ち着いた  
中で育つと平和な心を  
持つようになる。子どもは  
安心感を与えられて育つと

自分や人を信じるようにな  
る。子どもは、親しみに満  
ちた雰囲気の中で育つと、  
生きることは楽しいことだ  
と知る。子どもは、まわり  
から受け入れられて育つと  
世界中が愛であふれている  
ことを知る」

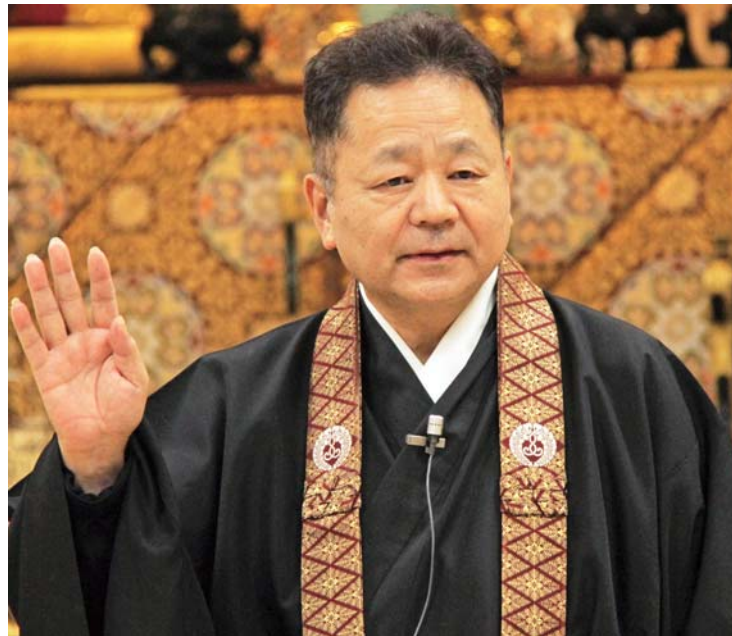
人は優しさやぬくもりの  
中で育つ事ができたら、あ  
たたかい人になっていくこ  
とができます。人生にはさ  
まざまな困難な出来事が生  
じ、その度に不安を感じた  
り苦しみを感したりするの

# 私の命はぬくもりの中に

が現実です。しかし、優し  
さやぬくもりを心のため込  
んで生きていくことができ

が現実です。しかし、優し  
さやぬくもりを心のため込  
んで生きていくことができ

うか。困ったときには助け  
を求め、愛情に支えられて  
生きていく、そうすること



たら、そういった出来事も  
なんとか乗り越えていくこ  
とができるのではないで  
しょうか。

困ったときに「助けて」と  
泣き、そして助けてもらっ  
て心地よくなるということ  
を経験し、その中で安心感  
や信頼感を得ていくのです。  
これは人生においてとても  
大切なことではないでしょ

## 心を開き、はたらきに出遇う

で自分自身の心もあたたか  
くなっていきます。しかし、  
せっかく愛情が届いている  
にもかかわらずそれを拒否  
してしまうこともあります。  
困ったときに素直に「助け  
て」と言えないのは、支え  
られているという  
ことに気づいてい  
ないからではない  
でしょうか。

阿弥陀さまから向けられて  
いるお慈悲に気づかず、自  
分の殻に閉じこもっている  
私です。そんな私に、阿弥  
陀さまは「私が一緒にいる  
よ。私がちゃんと見ている  
よ。ずっと支えているよ」と  
常に呼びかけてくださって  
いるのです。

親鸞聖人は阿弥  
陀さまのおはたら  
きを撰取不捨と示  
されました。たと  
え私が阿弥陀さま  
のはたらきに背を  
向け逃げようとも、  
どこまでも追いか  
けて、つかまえて  
決して離さないの  
が阿弥陀さまです。

そのはたらきに出遇わせ  
ていただくのが信心をいた  
だくということです。

私たちが日頃、  
仏法から目を背け、  
自分の判断が正しいと思っ  
てしまうことがあったり、  
困難な時に助けを求めずに  
自分一人だけで頑張ろうと  
することもあります。そし  
て、かたくなに自分ひとり  
で頑張っている気になり、

阿弥陀さまは、いつでも  
どこでも私をずっと支えて  
くださっているのだという  
ことを、お聴聞の中で、ま  
た「南無阿弥陀仏」の響き  
の中で、私に聞かせてくだ  
さっています。私のことを  
大切に想い、抱きしめてく  
ださっている阿弥陀さまの  
お心に気付かせていただき  
ましょう。

そして、私自身が心を開  
き、心をあたためられなが  
ら、お浄土への人生を歩ま  
せていただくのが大切な  
です。

(尾道市美ノ郷町・法光  
寺) 11月27日の鷲森別院  
報恩講の法話から